

ガザ病院で新生児約30人死亡

イスラエル軍攻勢、稼働停止

【エルサレム共同＝吉田昌樹、平野雄吉】国連は12日までに、イスラエル軍が地上侵攻を強めるパレスチナ自治区ガザ北部で複数の病院が直接攻撃されたと明らかにした。ガザ保健当局などは12日までに、地区最大級のシファ病院とアルクッズ病院が電力切れで稼働停止に陥ったと発表した。中東メディアは13日、ガザ保健当局者の話として、シファ病院では電力切れにより

新生児6人が死亡したと伝えた。【4面に関連記事】病院への攻撃は国際人道法違反。イスラエル軍はシファ病院地下にイスラーム組織ハマスの司令部があるとみて攻勢を強めている。世界保健機関（WHO）は、シファ病院には患者や医療従事者、避難民の計2千人以上が残留していると明らかにした。

WHOのテドロス事務局長は「シファ病院はもはや病院として機能していない」とX（旧ツイッター）に投稿。複数の病院が「死と荒廃と絶望の舞台」になつているとして、即時停戦を訴えた。サリバン米大統領補佐官は12日、CBSテレビに「米国は病院での戦闘を認まない」としてイスラエルに自制を求めた。

ガザ保健当局によると、シファ病院では電力切れに30人も危険な状態。周辺に軍が展開し、患者や医療従事者が屋外に出られなくなつた。病院から退避しようとした患者や住民らに砲弾があつたとも伝えられた。

パレスチナ赤新月社は13日「アルクッズ病院の敷地に戦車や軍用車両が入り込んでいる」と発表した。患者らが退避準備を進めるが「敷地内銃撃戦が続々」砲撃音がやまないと非難した。イスラエル軍報道官は12日、病院からの新生児らの移送をハマスが妨げていると主張した。また、ハマスがシファ病院への燃料300㍑の搬入を拒否したとも主張したが、ハマスは否定した。軍は13日もガザ北部住民に「回廊」を通じ南部に避難するよう通告した。

